



Title	北海道における小学校運動会の起源
Author(s)	鈴木, 敏夫
Citation	北海道大学大学院教育学研究科紀要, 89, 31-52
Issue Date	2003-03
DOI	https://doi.org/10.14943/b.edu.89.31
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/28895
Type	departmental bulletin paper
File Information	89_P31-52.pdf



北海道における小学校運動会の起源

鈴木 敏 夫*

The Origin of Athletic Meeting for Elementary Schools in Hokkaido

Toshio SUZUKI

【要旨】明治期における北海道の小学校運動会の起源。1886（明治19）年6月に開催された松前郡松城小学校運動会は、北海道における最初の小学校運動会であり、かつそれが全国的にも初期的事例の一つと目される。松城小学校を端緒とする松前郡小学校運動会の展開過程の考察は、日本の学校運動会成立の解明に重要な手がかりとなろう。

【キーワード】近代学校、運動会、学校行事、教科体育、デモンストレーション

はじめに

日本の近代学校において、儀式以外の学校行事のうち、最も早くから慣例化されたものに運動会がある。もともとこの種の催しは、近代以前における日本の社会的風土の中で育まれたものでなく、明治維新後の西洋文化の受容過程で、とりわけ公教育制度成立期に高等教育機関を媒介として成立した。

運動会の初発は東京築地の海軍兵学寮で、1874（明治7）年に開催された「競闘遊戯会」である。海軍兵学寮が内容的にも充実しはじめる1870（明治3）年頃に、太政官は海軍をイギリス式にするという公式決定を下した。それ以後の兵学寮の教育は、イギリス海軍学校の教育に準じたものとなったが、当時の学科規定によれば、英学・数学・兵学に加えて馬術・体術・水泳・兵式教練などの体育科目が挙げられている。1872（明治5）年にはイギリス人武官が配属され、士官教育は本格化する。A. ドグラス等数人の教師は、着任早々から生徒の体育向上に関する提言を行っており、イギリスの例に倣って各種の運動用具を配置し、運動を余暇活動として楽しませる方法を講じた。1874（明治7）年2月の「競闘遊戯会上申書」（生徒遊戯御許容ニ付テ）によれば、「欧米各国海軍学校ニハ遊戯ノ具ヲ具ヘテ講究ノ余暇ニ生徒ヲ楽シマシメ以テ勞ヲ慰ムルノ法有之（中略）随テ學術益進歩身体愈強健相成候¹⁾」とあり、その開催意図が身体養護とレクリエーション活動の奨励にあったことが判る。またそのプログラムには、競走・跳躍に加えて目隠し競争・障害物競争・二人三脚などの遊戯種目があり、今日の学校運動会の原型とおぼしきものが見られる。このように、初期の運動会は陸上競技を中心に、娯楽的遊戯を加えた即興的な運動の集会であった。

* 北海道大学大学院教育学研究科健康スポーツ科学講座教授

海軍兵学寮における陸上競技、遊戯併用型の運動会は、札幌農学校に引き継がれていく。興味深いことに、これら二つの運動会は前者がイギリス海軍学校、後者が米国マサチューセッツ農科大学をモデルとし、その移植の経緯も異なり、かつ相互依存性も認められない。従って、日本では明治維新期に相前後して二つの運動会が高等教育機関を母体として成立したことになる。札幌農学校は、開拓使直轄の農学の高等専門教育機関として1877（明治9）年に設立された。教授スタッフはW. クラーク等数人のアメリカ人教師であり、マサチューセッツ農科大学に倣った教育が展開された。英語や歴史などのリベラルアーツや農学とともに、体育系科目（体操・ミリタリードリル・マニュアルレーバー）が重視され、このことが「遊戯会」成立の背景をなした。札幌農学校教師であったW. ウィラーによって発案された遊戯会は、彼の母校であるマサチューセッツ農科大学のAthletic Meetingに倣ったものであったが、生徒主体による自主運営と教師・生徒を中心とする資金の共同出资方式は、遊戯会の大きな特色であった。

1883（明治16）年、東京大学及同予備門合同の運動会が、イギリス人教師、W. ストレンジの指導の下に開催された。グラウンドといっても一周100ヤード足らずの仮設トラックで、幅員は四間程であった。この運動会の特色は、レクリエーションな遊戯種目を排し、陸上競技種目を中心に番組化した点にある。ストレンジは1875（明治8）年に来日し、東京大学予備門の語学教師として教鞭をとる傍ら、『Outdoor Games』を著すなど、本家のイギリススポーツの紹介と普及に努めた。同書に見られる陸上競技種目（100～880ヤード競走・ハードル・砲丸投・ハンマー・棒高跳・幅跳・高跳）は、同校の陸上運動会の番組の内容でもあった。

以上三つの運動会は、黎明期における学校運動会の典型として、これまで個別の実証研究がなされてきたが²⁾、それらの発足の経緯は異なるものの、アングロサクソン系の外国人教師の主導によって成立した点は共通している。こうした高等教育機関の学校生活を特色づけた運動会は、はやくも明治20年前後には全国の公立諸学校に影響を与え始める。今村嘉雄は、明治期における最も権威のあった「大日本教育会雑誌」に収載された運動会記事を拠り所として、この時期の学校運動会の実施傾向を分析しているが、この中で運動会実施総数32例のうち、小学校運動会は20例であり、しかも全国的規模での開催であったことを明らかにした³⁾。小学校運動会の普及は、学校体育の制度的確立と軌を一にしている。即ち、1890（明治23）年の「小学校令」改正に伴う体育の必修科目化と、さらに翌1891（明治24）年の「小学校教則大綱」における体操科の身体的、精神的目標の明確化と相俟って、体操伝習所で選定された普通体操や兵式体操の普及奨励が、学校を舞台に本格化していく。この頃、各地で体操伝習所の体育法の普及を前提とした伝達講習会が開催され、普通体操を中心とする体操科教育の全国的統一システムの構築が図られていった。明治20年代に始まる小学校運動会の成立は、こうした教科体育の定立と深く関わっており、体操などの学習成果の発表の場として、ことさら体育上の意義を有するものであった。明治維新後に西欧的慣習の一つとして紹介された運動会は、その後日本の学校では、教科体育のデモンストレーションというかたちに発展していることに注目したい。

ところで、北海道では森文政期の「諸学校令」公布後間もなく、公立小学校において運動会が開催されている。1886（明治19）年6月に開催された松前郡松城小学校運動会は、北海道における最初の運動会であるとともに、小学校運動会としては全国的にも最も初期的事例と思われる。そこで本稿では、北海道における小学校運動会の先駆けをなした松城小学校運動会を事例に取り上げ、併せてこれまで明らかにされなかった明治期の学校運動会の初期の状況について考察を試みたいと思う。

1. 黎明期の学校運動会「札幌農学校遊戯会」

1878（明治11）年6月に開催された札幌農学校遊戯会は、海軍兵学寮「競闘遊戯会」と並んで、黎明期の学校運動会の先駆的事例と目される。北海道の初等中等教育機関の運動会は、1886（明治19）年を境に普及し始めるが、それよりはるか以前に成立した札幌農学校の運動会は、体育上の観点から学校行事として継続開催された。それ故遊戯会は北海道における学校運動会の前史であり、その成立・展開の実相を明らかにする意義も大きいと思われる。

札幌農学校で最初の運動会が開催されたのは、1878（明治11）年6月のことである。同校より警察署宛の「力芸施行ノ件届」によれば、「来ル二十五日頃本校生徒一統運動ノ為校前明地ニ於テ力芸施行致シ候間予テ御届ニ及置候也」⁴⁾とあり、農学校隣接の市街空地を会場として開催する旨の事前申請を行っている。ここでは運動会は「力芸」と表わされているが、その名称を「遊戯会」として一般化するのは第二回以降である。遊戯会の語源は Athletic Meeting であり、札幌農学校がモデルとするマサチューセッツ農科大学の体育の一環として行われた、陸上競技を中心とするクラス対抗の運動集会を意味する。

初期の遊戯会のありようは、札幌農学校二期生、新渡戸稲造書簡（明治11・12年）によって伺い知ることが出来る。

第一回遊戯会（明治11年6月1日付書簡）

六月一日当校教師ノ談並ニ助言ニ因リ生徒一同合シ、各々金二十銭ヲ出シ亦教師等各五円校長三円其他役員各々金一円ヲ合セ生徒中ヨリ役員ヲ撰ヒ本庁之門前ニテ力戯致候見物人四五百人斗リ戯之名左ノ如シ

第一 婦久呂（ヲ着テ早足） 第二 球（投ゲ） 第三 石（投ゲ） 第四 飛ブ

第五 第六 第七 右の他数三四斗リ有之候

右之賞品ヲ受ケ候人員ハ藤田九三郎、露崎久米一、大田稲造、宮部金吾、伊藤鑑太郎、山田義容、渡部寅二郎、小野兼基、伊藤隆一、第一等賞は二円以上之品にて得シ者ハ藤田、永井並ニ大田ニ御座候

（明治11年8月1日付書簡）

第六月一日当校教師ノ助言及指導ニ因テ生徒一同各々金二十銭教師各々五円校長三円役員各々一円ヲ出シ認高を以テ賞品を求メ亦生徒中ヨリ長、書記、世話人を選ビ本庁ノ門前ニテ力芸を興行シタリ 右之力芸左ノ如し不要部分ヲ省ク見物人凡四五百人 上等ノ賞品ヲ受けし者ハ藤田九三郎、永井於兎彦並ニ大田稲造 但し品物之価二円以上之物ハ西洋手拭、手帳、杖、香水、鏡、手婦久呂等ニ御座候

第二回遊戯会（明治12年6月1日）

昨日昨年之通り遊戯会を相催し候処私事一等賞四ツ受け候（金高ハ四円余リ） 一 蒙袋競走（賞品黒蝙蝠傘） 二 芋拾蝙蝠足 イモヒロイ（賞品写真 之は賞品の代に写真を撮リナリ） 三 停脚高跳 ナワヲ高クトブコト（賞品杖、鼻拭き、靴下） 四 一躍一跳（賞品肩掛、手袋、石鹼、楊枝）⁵⁾

新渡戸が札幌農学校在学中に両親宛に送った書簡のうち、遊戯会を扱ったものは三通であるが、これらは初期の遊戯会の実態を知る上で貴重な資料となろう。書簡によれば、遊戯会は「当校教師ノ談並ニ助言ニ因リ」とあるから、それが外国人教師の発案によって成立したことを示唆している。後年、第五十回までの遊戯会記事を纏めた「遊戯会記録」でも、「明治十一年札幌

農学校時代にクラーク先生と同道し来れる外人の発起により、第一回遊戯会が北一条通り（現北辰病院前）に於いて行われ」とあり、遊戯会における外国人教師の関与について触れている。遊戯会の種目は、投・跳運動（石投げ・球投げ・ジャンプ）、ハードル走、各種遊戯（ポテトレース・目隠し走・兎跳び）であり、その他に徒競走が行われたようである。このことから、遊戯会は陸上競技種目と遊戯種目を加えた、いわゆるスポーツ・遊戯併用の運動会であったといえる。札幌農学校第四期生、志賀重昂の「日記」⁶⁾には、遊戯会に関するいくつかの描写があるが、1881（明治14）の第四回遊戯会の頃には、番組種目の確定が見られる。志賀は遊戯会の企画に際して、五つの新種目を提案している。

三月十八日 土曜 晴れ

化学ノ小試験アリ題ハ五箇ニテ頗ル容易、橘氏来テ課業本日休業ノ由ヲ告グ、遊戯会云々ノ報告来ル予新奇ノ題五箇ヲ選テ曰ク（一）餅播キハ如何（二）駄毬ハ如何（三）予科ノ小僧達ヲシテ子供角力ヲトラセル如何（四）豚ヲ追フ如何（五）遊戯後孔子哲学士ヲシテ踏舞セシムヘシ、夕食散歩

六月三日 土曜 曇

今日ハ愈遊戯会ニ当レハ昨日ヨリ色々ノ用意アリ午前九時ヨリ射的アリ皆々得意ノ秘術ヲ顯ハシヌ予不中ナリ頃刻ニシテ森校長始メ井川氏等臨席終テ半英里奔走アリ大中根一等賞ヲ得ヌソレヨリ帰テ待ツ程二十一時午食シ鈴木ノ小僧ナド戯レ居ル中十二時ヨリ開会臨席ニハ校長教師校員、「サンマース」婦人ナリコレニ茶、洋菓ナド供ス見物人土ノ如シ、三足奔走、飛ヒコ、袋入奔走、百騎雷奔、薯拾ヒ等済テ雨天近ケレバ漸ク戯ヲ早メス豚捕ヘハ仕掛ケノ大層ニモ係ワラス面白カラザリキ「ベースボール」終テ綱引アリ全校生徒ヲ二組ニ分チ即チ紅白ナリ予ハ白ヲ得タリ卒業生モ思ヒ思ヒニ各組ニ入ヌ次ニ旗取アリテコノ組モ前ノ綱引ニ同ジ予ハ白軍ノ寄手トナリテ奮戦数刻俟見足立氏諸教員ノ中際ニ依テ中直シタリ会モ終リ見物人モ散ジメ

遊戯会に関する志賀の「日記」の文章は、当時の実施種目を正確に描写したもののといえよう。日記の記述には、射的、奔走、ベースボール、ポテトレースなどの種目が見られる。近代スポーツとしての陸上競技は、当時の日本では行われた形跡はないが、初期の遊戯会ではその原型とおぼしき競技は存在している。遊戯会で使われた運動用具は、全て生徒達の手づくりであった。とまれ、遊戯会が純粋な陸上競技種目に終始することなく、観衆が見て楽しめる内容構成となっていること、遊戯の趣向、会費の周旋、戯場の整理、装飾等、悉く生徒の任務分担によって維持された点など、いくつかの特徴が見られる。

こうした生徒主体による遊戯会の企画運営方式は、1870年代中葉のマサチューセッツ農科大学の運動会のスタイルを模倣したものであった。札幌農学校二期生の宮部金吾は、「農学校の遊戯法」の中で、発足時の遊戯会を回顧して次のように述べている。

本学の前身農学校時代における運動会の始まりは明治十一年の五月か六月でした。その当時は教師はことごとく外国人教師で、米国マサチューセッツ農科大学出身の人達から成っていたため、その母校に於いて行われていたそのアスレチックなるものをそのまま輸入していた。そのスポーツは現代の競技と大体同じで、マサチューセッツ農科大学の同窓会会報「アラムナイアソシエーション」を見ると、あちらで行われているものとほぼ同一のものが行われたのである⁷⁾。

ここでは遊戯会の成立を、マサチューセッツ農科大学の Athletic Meeting の移植によるもの

と理解されている。マサチューセッツ農科大学のカレッジスポーツは、1871(明治4)年のベースボール、ボートのクラブ化を契機に学内に普及し、その後のフットボールクラブの組織化の過程で1875(明治8)年にスポーツの統括団体である「College Athletic Association」が誕生した。この団体が主催したのが、クラス対抗の運動会であった⁸⁾。マサチューセッツ農科大学の運動会種目は、フィールド競技としてハンマー投・砲丸投・高跳、トラック競技として100ヤード・200ヤード・4分の1マイル・2分の1マイル各レース、それにポテトレース・サックレース・二人三脚・目隠車押レースから成る遊戯であった。ここには、陸上競技と遊戯を加えた種目の編成が見られるが、発足時の遊戯会には、それらの種目の多くが採用されていた。遊戯会の発案者の一人と目される W. ウィラーは、学生時代にマサチューセッツ農科大学の最初のスポーツクラブであった「Aggies Team」(ベースボール)の部員として活躍したが⁹⁾、自らのスポーツ経験をふまえて、生徒に対するスポーツの体得と運動習慣の醸成を目的に、マサチューセッツ農科大学型の運動会を札幌農学校に導入しようとしたのではなかろうか。

遊戯会は1881(明治13)年に一度だけ中止されたものの、以後は1911(大正11)年にそれが終焉を見る迄、39回の長きに渡って継続開催された。マサチューセッツ農科大学の運動会をモデルとした遊戯会は、農学校における学校行事化の過程で改良がなされ、内容的にもユニークな運動会として発展していく。本来、遊戯会は農学校関係者の体育的、レクリエーション的行事であったが、それが春季に開催される確定行事となるにつれ、札幌の年中行事の一つとして一般市民の関心を集めた。

昨六月十一日午前九時より催はされたる農学校遊戯会は該校の校庭芝青々たる処南北六十間東西三十間の長方形なる場所を構へ西方に出入りの門を造り之に緑葉を以て押絵したる額を掲げて其上に大國旗を交叉し場所の周囲には大小の國旗數十を植へて場の北端は仮家構へて椅子を配列し、数十箇所に丸型の机を据へその上に盆栽を鞍排して之を貴賓席とし、南端には西洋各國の旗章を山形に架け渡したり、かねて招待券を發して來賓は北海道長官屯田兵士官外國人來賓の家族なり、參觀人戯場の三方を囲堯して寸地を余さる程の群集にてありき¹⁰⁾

北海道における小中学校の運動会は、明治20年代によく普及し始めるが、この頃の遊戯会は実施内容も多彩であり、番組のいくつかは札幌の諸学校運動会に影響を与えたと思われる。

札幌農学校第十回遊戯会(明治21年6月)

遊戯の順序 第一 ベースボール 第二 疾走高跳 第三 片脚競走 第四 背面競走
第五 縄廻 第六 予科生蛙跳競争 第七 半英里競走 第八 フートボール 第九 三脚競走 第十 百五十ヤード競走 第十一 二百ヤード電奔 第十二 來賓競争その他¹¹⁾

1881(明治21)年10月、創立間もない北海道師範学校は、第一回運動会を博物館裏手の広場で開催した。北海道毎日新聞の報道によれば、番組は分列式・体操、二人三脚、綱引、縄跳、背面競走などの遊戯の他、ベースボール、フートボールを内容としている。ベースボールとフートボールはマサチューセッツ農科大学出身の外国人教師が札幌農学校に伝えたスポーツであり、開学後数年間は生徒の一部が密かに興じていた球技であった。1882(明治14)年以降の遊戯会におけるベースボール、フートボールの番組化は、これらのスポーツが校内球技として定着したことを物語る。北海道尋常師範学校運動会はその実施種目から見て、札幌農学校遊戯会の内容と重なるものが多い。しかしながら、師範学校の運動会の発足が札幌農学校遊戯会の直接的影響のもとによるものかについては、資料上の制約から俄かに判断し難い。

2. 北海道における最初の小学校運動会

1875（明治8）年10月、松前郡における最初の公立小学校である福山公立小学校が開設された。在学生は福山市街各所に散在する寺子屋より収容する者150名程であり、校舎として旧城（福山城）本丸が代用された。同校は翌1876（明治9）年5月に公立松城小学校と改称され、上等・下等の二科を設置し、教員数8名からなる近代学校としての体裁を整えた。その後、開拓使令による教則の改正があり、上等・下等小学科の修業年限が各三年と定められたが、1886（明治19）年の文部省令によって尋常科と高等科に区分され、修業年限も各4年と延長された。この年の6月に、松城小学校の第一回運動会が開催されている。

○ 郊外大運動 本日七日松城小学校は立石野に於て目覚しき大運動を催したり今其景況を記さんとするに方り同校の報告書を得たれば録して閲覧に供す

同校の報告書である「松城小学校立石野大運動報告」によれば、運動会の開催趣旨は次のように述べられている。

今回本校生徒ヲシテ郊外大運動ヲ為サシメタル所以ハ從來本校生徒ハ概シテ温順ニ過クルモノノ如ク謂ハハ不活発トモ批評ス可キ傾向アリ特ニ中等科以上ノ生徒ニ至リテハ起居動作大人気取勇壯快活ノ志氣ニ乏シク其遊歩場ニ在ルヤ一隅ニ佇立シテ遊戲ニ手ヲ出サス是等ハ惟リ衛生上ニ害アルノミナラス延テ他日ノ大成ニ関係ヲ及ホス必セリ之ヲ救済セントスル宜シク劇薬ヲ投セラル可ラス又日々施行スル体操法ノ如キ終始同一轍ノ矯正術徒手ニ止ルヲ以テ頗ル倦怠ノ情態アル此時ニ方リ奨励ノ方法微カリセハ遂ニ体操ヲ忌厭スルニ至ラントス依テ此挙アル所以也¹²⁾

松城小学校は開学以来、体操科設置あるものの、概して生徒の身体活動は不活発であり、その原因の一つが1880年代に急速に普及した軽体操中心の体育教育にあるとされる。この軽体操は、1878（明治11）年に設立された東京体操伝習所の招聘教師であった米国アマースト大学出身の医師、G. リーランドが伝えたものであり、彼の帰国後の1882（明治15）年に出版された『新撰体操書』（坪井玄道）、『新制体操書』（体操伝習所）以降、わが国では「普通体操」として統一された。当時行われた普通体操は、整頓法・啞鈴・球竿・棍棒・環・豆囊を用いた手具体操、および器具を用いない徒手体操から成る。米国では、これらの体操がピアノの伴奏によってリズムカルな演習となるように工夫されているが、この手法は日本の諸学校では普及しなかった。身体の矯正と柔軟性の回復を目的とするこれらの体操は、発達段階に即した指導法や学習内容の順序性を持たず、ために画一的、形式的な運動に陥らざるを得なかった。本報告書で指摘された「矯正術徒手ニ止ルヲ以テ頗ル倦怠ノ情態アル」は、普通体操が松城小学校生徒にとって興味を引く運動でなかったことを物語る。普通体操が松前郡の小学校に普及する経緯については次章で述べられるが、その導入の時期は1884（明治17）年頃と推定される。松城小学校沿革誌によれば、同年11月に「函館県ヨリ学事奨励ノタメ報徳記及ヒ普通体操書各一部下付セラル」とあり、それが普通体操の体操科導入の直接的契機をなしたと思われる。

この頃函館県では、管内の小学校に普通体操法の普及を図るために、小学校教員を対象とした体操講習会が開催されている。当初函館区内の小学校教員を対象に始められた講習会は1885（明治18）年にはその範囲を茅部、山越、松前郡にまで拡大させ、教員に対して普通体操法習得の機会を与えるとともに、県下の小学校に普通体操中心の教科体育システムの確立を目指そうとした。松城小学校の第一回運動会は、同校に普通体操が導入されて間もない時期であ

り、普通体操の指導法の未確立と相俟って、それが生徒に受け入れられなかった可能性が高い。

松城小学校では運動会を「大運動」と謳っているが、本来、身体運動を媒介とする競技的、遊戯的性格を持った運動会という呼称が、関係者の間には理解されていなかったためであろう。同校の運動会は、生徒の日常的な学習意欲や行動を振起させ、合わせて父兄に対する学事奨励と学校体育の振興を目的に、企画されたものであった。松城小学校第一回運動会は「松前教育会雑誌第一号」(明治19)に詳細に報じられているので、ここでは当日の運動会の景況について以下に示したい。

六月七日天晴レ雲ナク西風微ニシテ塵埃起ラス蓋シ運動ノ好時季ト謂シ午前十一時職員十一名各受持生徒ヲ遊歩場ニ整列セシニ二百六十名アリ之ヲ体操組別(各年齢体力ニヨリ一組ヲ凡五十人トシ初等六級ヲ除キ五組ニ分テリ)ニ依リ源平二隊ニ分ケ其目標ニハ左腕ヲ約スルニ紅白ノ綿布ヲ以テシ又大隊旗紅白二旒及五色ノ旗五旒(本校教員ノ寄附ニ係ル)ヲ西風ニ翻ヘシ正々堂々出発シタルハ正午十二時ナリ郡役所ヨリハ大崎佐藤石野鈴木ノ四郡書記臨視セラル紅白前後両隊行装ノ威勢サモ勇氣アリケシニ見ラレタリ市街見ルモノ何事ヤラント驚キツツ、陸続追隨シテ無慮数百ノ見物人トハ為レリ而シテ立石野ニ着シタルハ零時四十分也依テ立石野ノ前面ナル廣原坦地ヲ相シー同旗ヲ列ノ如クニ樹立シ解散シテ休憩シタリ此地本校ヲ距ルコト三十町許ナリトス其ヨリ凡三十分時ヲ経テ運動ヲ開始ス順序ハ第一体操第二綱引第三旗取トス

体操 体操ハ特ニ源平ノ區別ヲ立サレトモ隊列ノ編成ニヨリ自然前列ハ源後列ハ平ト為レリ担当ハ田原駒吉ニシテ先ツ全隊(初等六級ヲ除キ二百三十人)一斉ニ矯正術ヲ演スルニ二回更ニ第二ノ組マテ徒手ヲ演スル一回了リテ全隊ヲ二分シ駆足ヲ為ス凡ソ十分時ニシテ止ム其矯正術ノ如キ尤モ能ク出来タルモノノ如シ郡役所ヨリ優等ノ者六人へ夏帽子興サレタリ

綱引 源平二隊ヲ南北ニ整列セシメ教員ノ内林桜庭山川田中ノ四名ハ白隊ノ看護トシ田原青島嶋崎長尾ノ四名ハ赤旗ノ看護トシ下国ハ喇叭小林上原ハ局外中立シテ検査係タリ両隊ヨリ二十人宛ヲ選抜シ予メ距離ヲ画シテ大縄ヲ横タヘ喇叭ノ合図諸共ニ双方力ヲ極メ曳々ノ声ニテ之ヲ引キシカー一張一弛暫シ勝敗ハ見ヘサリシ是時双方ノ看護ハ全員劣ラシト鼓舞セシニ赤隊ノ腕力ヤ弱カリケン漸ク白隊ノ為ニ引寄せラレ既ニ所定ノ距離ニ至リシ時検査係ハ喇叭ト共ニ白ヲ掲ケテ判シタレハ呼フ声天地ニ響キ暫シハ鳴リモ止マサリシ其ヨリ第二第三次更ニ二十人ヲ出シ競走セシニ白隊ハ戦勝ヲ驕リタルニヤ二回続テ敗ヲ取り殆ント委靡ノ色アリシカ第四次は勝敗決セス第五次ハ白隊ノ勝ト為リ結局双方勝敗無ク止ム

綱引運動ハ敢テ危険ノ患無ケレトモ其勇氣ヲ鼓舞スルノ甚テシキ意想外ニ出テタリ競争中間紛議ヲ醸シ看護ト取組マンツ勢ヲ表ハセシハ亦興ニテアリキ

旗取 源平二隊ニ分チ双方ヨリ十人宛出シ殆ント百間ノ距離ニ五色ノ旗ヲ立テ喇叭ノ合図ニテ各劣ラシト駆出シタリ其勝敗ハ紅白ノ旗ヲ掲ケテ示スコトシ勝者ニハ郡役所ヨリ夏帽子各一個ヲ賞与セラレズノ如クシテ第九次ニ至リ止ム

是時已ニ六時ニ至ル乃テ隊列ヲ整ヘ帰路ニ就ク生徒一同疲労シタルモノト見ヘ平日ニ異リ喧騒ノ声ナク静肅シテ規律乱レサリキ初等六級ハ未タ体操ヲ教授セサレトモ運送場ニ引率シテ随意ニ遊戯ヲ為サシメタリ青草茫々ノ間三々五々輾転起臥シテ余念ナキアリサマハ一層樂シカラヘク思ハレタリ特ニ又道路平坦ナルヲ以テ往復共ニ左マテ疲労セシトモ見ヘス帰路長靴ノ為足ヲ痛メタルモノ唯一人アリシニ過キス¹³⁾

6月7日に開催された松城小学校運動会は、全校生徒260名が11名の教員に引率されて、午前11時に福山郊外の立石野に向けて出発した。会場となった立石野（現建石地区）は、当時は原野であり、市街西方三十町（3km）に位置する。生徒は年令、体力別に区分した5クラスに編成され、それらを紅白の二集団に分ち、隊伍を組みながら徒歩にして40分の道のりを行進したとある。この運動会には郡役所より4名の書記官が派遣され、競技の優等者に賞品を供与した。住民は生徒が五色の旗を翻しながら市街を行進するさまに驚き、これに追隨する者、「無慮数百人」と報告されている。

運動会の実施種目は、体操、綱引、旗取であった。体操は徒手及び矯正術から成り、初等六級（第一学年）を除く230名が演習を行っている。ここでいう矯正術とは、「身体ヲ美容好姿ニ為サシムルノ義ニシテ器械ヲ籍ラス専ラ四肢軀幹ヲ運動セシメ以テ体ノ姿勢ヲ整備ナラシムル」ことを目的とした、いわゆる整容法（カリセニクス）を意味する¹⁴。姿勢の矯正を目指す身体矯正術の習得は、普通体操法の基本的運動とされている。従って、運動会の一種目であった体操は、啞鈴、棍棒、木環等を用いた手具体操を除外したことが判る。これらの手具体操器具は当時は市販されておらず、その購入に際しては多額の金額を必要としたことから、文部省が推奨した普通体操は明治10年代の北海道において、まず整頓法、徒手体操、矯正術（カリセニクス）中心に始められたものと思われる。

綱引は縄引きと同種であるが、ここでは生徒20名が一組となし、都合5回にわたり実施された。綱引運動はさして危険なものではないが、生徒が気力を振るって全力を尽くす模様がリアルに描かれている。特に付き添い教員が熱心さの余り、判定をめぐって物議を醸し、「看護ト看護ト取組マンズ勢ヲ表ハセシハ亦一興ニテアリキ」と、興味深い表現をしている。運動会の最終種目である旗取は、生徒10名を一組として編成された。この競技は喇叭の合図とともに、紅白両組が敵陣めがけて駆け出し、隊旗を奪い取るというものであった。競技は9回にわたり実施された。また、初等六級生は学校における体操科教授の経験がないために、競技には参加せず、自由運動をさせたと記されている。

以上が、松城小学校第一回運動会の記述である。筆者はこれまで北海道における運動会の成り立ち研究を進めているが、同校の運動会は北海道の運動会史上、最も初期的事例と目される。松城小学校運動会の成立は、明治10年代後半における文部省の学校体育振興方策、わけても普通体操の諸学校への導入による体操教育振興方策を背景としている。諸学校における体操の統一システムとしての普通体操の採用は、リーランドが伝えたこの体操が、医学（生理学・解剖学）に裏打ちされた合理的運動であり、かつそれが比較的軽便な器具の使用ないし徒手運動による演習という、体操法の特性を評価したものであった。松城小学校運動会の実施種目は、普通体操法の一部である徒手・矯正術と、綱引・旗取の遊戯種目から成る。同校の教員は学校体育の主教材である普通体操の不振を憂い、それが徒手、矯正術の演習に偏していることを認めながらも、体育教育が生徒の「他日大成ニ関係ヲ及ホス必セリ」とする身体形成上の見地から、その必要性を強調している。その意味で、運動会の企画は教育上の観点から、教員相互の間で自然発生的に発案されたものといえよう。しかしながら、こうした教員の熱意によって開催された運動会は、当日の主役であった生徒達の運動会に関する反応や感想については、一切触れられていない。第一回運動会は、松前教育会会員など、教育関係者達によって郡内各地に伝えられ、学校行事としての運動会に対する認識が高まっていく。松城小学校運動会は、翌1887（明治20）年には近隣の小学校に影響を与え、複数校による連合運動会として新たな展開

を見る。

3. 連合型運動会の成立

1887（明治20）年を境に、松前郡の教育関係者の間には運動会の開催気運が高まった。中でも、郡内最初教育団体である松前教育会は、運動会の啓蒙に中心的役割を果たした。松城小学校的運動会は、機関誌「松前教育会雑誌」に公表され、その教育的意義を評価する論調は、諸学校教員の関心事となった。多数の教員を会員に擁する教育会は、運動会の組織化をめぐる小学校間の連絡調整的機能を担った。松前地方はその立地条件から、海浜に散在する集落の拠点地区に小学校が開設され、松城小学校を除く諸学校の多くが小規模校であった。また、当時は屋内体操室はおろか、屋外運動場もない状態で、体操科の教育も形骸化していた。松前を含む明治期中葉の日本の学校運動会が、原野、神社境内、居住地区の空地で開催されたのは、こうした学校体育施設の未整備によるものであった。こうした状況下で考え出されたのが、複数校による連合形式の運動会であった。（以下、連合運動会とする）この新しい型の運動会は、運動用具の共有、運営資金の捻出、生徒管理上の容易さなど、実施に伴う困難性を打開する最良の方法であったといえよう。

連合運動会の企画は、まず福山市街の松城、熊野、山上三小学校で試みられた。1887（明治20）年の「公立熊野小学校沿革誌」によれば、同年6月に「松城熊野山上三小学校生徒大運動会の開催ニツキ教員有志デ打合セタリ」¹⁵⁾とあるが、連合運動会開催に際しての準備会発足の記述は「松城小学校沿革誌」にも見られるので、この頃三小学校間による連合運動会の取組みが開始されたようである。準備会は運動会を10月9日と定めて、生徒総員412名の大集団から成る運動会の実施形態と内容についての意見交換がなされた。9月半ばにはその準備も終え、各校の代表幹事（発起人）も決定された。松前教育会は9月30日発刊の機関誌において、三校連合運動会施行に関する会告と広告を載せ、大運動会の一大キャンペーンを張った。

会告 十月八日例会ハ三学校大運動会施行ニ付第三土曜十五日ニ延会ス施行ノ目的ハ大松前掲示場ニ広告スヘシ右報告ス

大運動会ノ広告 十月九日より立石野に於て松城熊野山上三小学校生徒大運動会を施行す有志の諸君来観あれ

明治二十年九月三十日	大運動会発起人	石野得太郎	田原 駒吉
		石黒林太郎	松前富之助
		小林 到	山田雅之丞
		平山 清作	

大運動の順序

第一番 体操並戸外運動 第二番 競走 第三番 却歩競走 第四番 二人三脚
 第五番 源平球技 第六番 旗拾競走 第七番 源平旗戻競走 第八番 一人一脚
 旗拾競走 第九番 牢屋鬼 第十番 馬跳 第十一番 鬼遊 第十二番 源平綱引
 右運動会軽費の内へ教育に熱心なる会員諸君の幾分の義捐あらんことを望む¹⁶⁾

当日の三小学校連合運動会は実施種目も多く、かつ内容的にもいくつかの特徴が見られるので、ここでは函館新聞の報道から当日の運動会の景況を概観し、その諸特徴を見てみたいと思う。

松前郡福山各小学校生徒大運動会

松城熊野山上三小学校生徒合併して本月九日同地立石野なる原野に大挙して大運動会を施行したり其景況を略記せしに同日は朝来空晴れ渡れども風強くして、一同大いに焦慮せしが漸次風も和らぎ午前十時松城小学校に集合したるは其生徒総員四百十二人なり之を二大隊に分け赤白の襷を纏はしめ大運動会と筆太に書きたる大旗（方九尺有余）を真先に立て続いて紅白の旗百余旒を翻へし指令長伝令小隊長（皆学校教員）の指揮に随ひ整列市街を西に横切り該地に到着したるは十一時過なりき本日は兼て市外に評判したる運動会のことなれば見物人は各自に行厨を携へ相集まりたるもの無慮千有余人と見受けたり若し当日をして満天雲なく軟風温和の日和ならしめば尚巨多の来観者を増加せしならん其他近在大沢白神荒谷等の小学校よりは年長の生徒百六十人道の遠きも厭はず教師に導かれて来観せり、諸運動場の境界は幅三十間（五四米）の之を画し周囲に縄を打張りて区画を施せり其東西に源平二隊の陣取りをなし運動場の前面に屋を設け幕を張りて客員の席となす其中央には司賞部及審査係を置き一運動毎に其優劣を判定して直ちに賞品を授与す又怪我人の用意の為医員出張所を設けて之が備へとす運動は第一番より第十二番の種類ありしが時間も非常に延引し且つ出揃ひの遅かりし為八番にして終る其内来観者の目を覚まさせしものは徒手及び啞鈴体操なり因みに云ふ本郡は夙に遠藤克己氏（現今函館商業学校教諭）を招聘し教員の体操講習を開きしを以て其反映生徒に写り尤も体操科は進歩し居れり而して其次葉競走なり又却歩競走の如き其巧にして且迅速なる誠に見事に見受けたり優等にして賞を得しもの都合四十人第五番に綱引をなせしが生徒の力量や強かりけん二度まで大綱を引切り遂に勝敗なくして終りしは却って上出来なり 見物遊山人は行厨を携へ一瓢を肩にし細君同行もあり或は芸妓等を引連れたるものありて大凡千五百人ばかりさしも広き野原に充滿したり

這間の運動費は六十余円にして市街の有力者及び郡役所警察署学校職員等の出金に係れり 実に近來見事の会にして且つ体育上の奨励と実験とには適良のものなり¹⁷⁾

この連合運動会の特徴点の第一は、実施プログラムの多さとその趣向性にある。番組は体操（徒手・手具体操）、競走（徒競走・二人三脚・却歩競走）、遊戯（綱引・旗取）に区分されるが、なかでも運動会のメイン種目は普通体操であった。体操は徒手体操を中心とする基本運動と手具体操が演じられた。松城小学校で不採用となった手具体操が、ここでは生徒全員に課され、来観者の注目を浴びた。この事実、普通体操の応用的側面である手具体操の体操科への導入が、1886年以降に開始されたことを意味する。函館新聞の松前通信員による連合運動会の記事には、「因みに本郡では夙に遠藤克己氏（現今函館商業学校教諭）を招聘して教員の体操講集を開きし」とあり、同郡における普通体操普及の契機が、体操伝習所修業生であった函館師範学校出身の遠藤克己による、体操伝達講習会にあったことを指摘している。

松前教育会雑誌（1886）によれば、この講習会には郡内各地の小学校教員30名が松城小学校に集まり、三日間にわたる実技講習を経て最終試験が課された。その結果は同誌に公表されいるが、実技平均点は70点程度であり、「本講習会の成果は概ね良好なり¹⁸⁾と評価された。北海道における最初の普通体操の伝達講習会は、1885（明治18）年に函館区内の小学校職教員を対象に行われた「体操講習会」であった¹⁹⁾。それが翌年には松前にも及んでいることから、函館県では文部省の指示に従って、県内全域の小学校に普通体操中心の体操教育の確立を図ろうとしたと思われる。県内の普通体操普及の中心的役割を担ったのは、北海道出身の体操伝習所修業

生であった。「文部省年報」によれば、1878（明治11）年の体操伝習所開設以来、それが終焉する1886（明治19）年までの9年間における道内出身の修業生は4名であった。このうち3名は函館師範学校教員と同校の卒業生であった。松前をはじめとする函館県の体操講習会は、普通体操の知見を確実なものとした体操伝習所修業生が中心となり、彼等による定期的な地方巡回講習が盛んに行われた。

体操伝習所卒業生調査

	回 期	入学年月	卒業年月	入 学	備 考
給 費 生	1	明治 12. 4	明治 14. 7	21	
	2	13. 10	15. 7	15	
小 計				36	
伝 習 員	1	15. 1	15. 7	13	各府県派遣伝習員
	2	15. 9	16. 7	22	
	3	16. 10	17. 6	17	
	4	17. 9	18. 3	18	
	5	18. 1	18. 7	27	
	6	18. 9	19. 3	27	
	7	19. 3	19. 6	8	
小 計				132	
別課伝習員	1	17. 9	18. 3	20	
	2	18. 2	18. 7	22	
	3	18. 9	19. 3	20	
	4	19. 1	19. 6	25	
小 計				87	
合 計				265	

（文部省年報より作成）

福山三小学校連合運動会の生徒による体操の実演は、該校における体操教育の成果を地域住民に公開する格好の機会となった。運動会が単に祭りのパフォーマンスに終ることなく、生徒の気力、気質鍛錬といった訓育的側面や体育の効果の実を挙げる有効な手立てとして活用された。この意味で、運動会は文字通り「教育的運動会」の性格を保持していたといえよう。

第二の特徴点は、連合運動会が多くの識者による寄附金によって維持されたことである。運動会に寄せられた寄附金は、「市街地の有力者及び郡衙警察署学校職員等の出金によれり」と、10月16日付の函館新聞は報道している。寄附金総額は七重余円と高額であり、これらの全てが当日の運動会の運営資金とされた。その大半は「今回はじめての会なるがゆへ、器械器具購入等（体操用）のため六十円を要すへし」と、それが手具体操器具の購入に充てられた。

当日の連合運動会では、体操が全生徒による一斉体操形式で実演されているが、こうした大集団にあてられる手具体操器具は、学校に配置された諸器具では賄いきれず、その不足分を寄附金から充当したものであろう。

第三の特徴点は、運動会における来観者（見物人）の多さにある。当日の運動会は、参加生

徒をはるかに上回る住民が会場に繰り出し、宴を張りながら賑やかに見物した。その様子は函館新聞をして、「見物遊山人は行厨（弁当）を携へ一瓢を肩にし細君同行もあり或は芸妓を引き連れたるものあり、大凡千五百人ばかりさしも広き原野に充満したり」と報道され、さながら祭りの運動会の様相を呈していた。文化・娯楽に恵まれなかった当時の住民にとって、身体活動を媒介として多くの生徒が興じる運動会は、大きな関心事となった。ここにはその後の学校運動会の普及と相俟って、父兄、生徒が共に楽しむという、日本の祭りの運動会の原点が見出される。

福山市街三小学校連合運動会は翌年にも開催され、1888（明治 21）年の第三回連合運動会は、北海道の最初の簡易科小学校の一つである私立柴田小学校を組み入れながら発展していく。

4. 松前郡小学校運動会の発展

1886（明治 19）年に松城小学校で開始された運動会は、その二年後には郡内全域の小学校に影響を及ぼした。ここでは福山市街小学校、吉岡宮歌白符福島四ヶ村小学校海陸運動会を取り上げ、これら運動会の特徴などについて述べてみたい。

福山市街第三回生徒連合運動会

福山にて去る十一日各小学校第三回連合運動会を催せり元来九日に催すへきところ当日は雨天のため十一日に延期せしなり同日は朝来曇天にして時々小雨を来せしも幸ひ午前九時頃より雨止み雲晴れ好天気となりたれば松城熊野山上三公立学校及び私立柴田小学校の各生徒一同松城校に集合し夫より隊を整へ伍を正し直に立石野に向って進行せり総人員は五百五十人余にて源平二隊に分ち赤白の襷を以て標識となし各教員之を指揮監督せり而して審査部司賞部医員の各部を設けフラグを立て審査部には石野郡書記菊池両氏なり司賞部には山内郡長石黒林太郎両氏ありて賞品を授けらる医員は病院より中山氏の出張あり又徒手運動の種目は第二徒手体操、第一啞鈴体操、アングレス体操（棍棒）、戸外運動、旗拾競争、馬跳競争、女子豆囊体操、馬上相撲、源平綱引、棒登り、有志競争にして午後六時散会せり当日の勝敗は源平とも併せて二十余名の受賞者ありて遺憾なかる趣きなりといふ²⁰⁾

この運動会には簡易科小学校である柴田小学校が新たに加わり、参加規模も 500 名を越える大規模な連合運動会であった。会場となった立石野には、予め教員が「三十間と四十間の方塘を画して」運動場となし、諸係・来賓席、生徒用控席を配置して運動会の雰囲気高めようとする工夫を凝らしている。また「松前教育会雑誌」によれば、運動会に臨む生徒の服装は「生徒悉く洋服及び薩摩茂尻を着し草鞋を穿而」とあり、運動靴の代用としての縄草履の使用と、洋服スタイルでの参加が認められる。

運動プログラムは普通体操、各種遊戯、競走から構成されているが、体操は徒手体操と手具体操であり、とりわけ後者における体操の内容が啞鈴、棍棒、豆囊と特定がなされている。このことは、当時の小学校における手具体操がこれら三種類の教材によって代表され、球竿やリング等の体操は課されていなかったことを意味する。各種遊戯はこれまでの運動会に見られる旗取、綱引、馬跳、鬼ごっこに加えて、騎馬戦や棒倒しといった好戦的な競走種目が新たに登場する。これらは後の 1890 年代後半に定着した北海道の小学校運動会における定番の遊戯種目となっていく。プログラムの内容をなした競走は、生徒相互の走能力を競う短距離のレースであったが、第三回運動会から官民有志による競走を番組に採用するなど、ユニークな趣向が

見られる。

一方、福山を端緒とする小学校運動会は、この時期に郡内小学校に影響を与えたが、ここでは隣村の福島、宮歌、吉岡、白符四ヶ村の小学校連合運動会を事例に考察したいと思う。

吉岡村海陸大運動会

八月二十三日吉岡村に於いて施行したる同会は吉岡宮歌福島白符四ヶ村学校職員七名と生徒二百八十余名其他委員を以て組織し中々盛会なりし由当日は山内郡長は石黒林太郎書記官を随ひ又本会員松前富之助君上原左馬太山清作氏下国美太郎林小次郎の五君何れも同日午前四時福山出発翌日帰福したり其概況を聞くに運動場は浜辺にて凡五十間に三十間の長方形を作り各村各色の旗章を目標とし太鼓の合図にて午前十時より運動を開始す番組は(一)第一及第二矯正術(二)旗取競走(三)徒手体操(四)半英里競走(五)源平綱引(六)馬上相撲(七)水泳及旗取競走(八)船漕競走八番にて各村互ひに勝敗ありしが最後に大運動会優等と書きたる旗を福島小学校に授与したりこの日来観者凡そ千五百人あり生徒には午餐時及び帰途に就く際菓子餅を配給したり賞品器具其他当会の費用金七十円余は総て有志者の寄付により²¹⁾

当日の運動会の景況を報じた松前教育会雑誌によれば、四ヶ村小学校の生徒280余名が吉岡村の海岸に集合し、「海陸大運動会」と呼称した連合運動会が開催されている。俄つくりの会場を海浜に拵えて縄で区画し、周辺を溢れんばかりの村民が埋め尽くした。連合運動会の種目は8種目であった。体操は普通体操のうち手具体操を除いた徒手・矯正術が生徒全員に課されている。競走は半英里競争(800m)の1種目のみ、これに福山市街小学校連合運動会で採用された綱引、旗取などの遊戯種目が加わる。これらの遊戯種目には水泳旗取競争や船漕競争など、いかにも漁村の運動会らしい種目が採用された。福山隣村での最初の運動会は、招待者の間にどのように受けとめられたのか。以下は、これを参観した松前教育会会員の批評である。

運動場の悪しき為大いに体裁を失したるは場所の無きとは言ひ甚だしく遺憾なりし体操は凡そ上手とは言はれず併し簡易科にて余分に能くも斯く練習したるものと称せんのみ旗取競争及び半英里競走は何れも活発なり彼の砂礫上の浜辺を裸足にて疾走するは勇強の相現れて感服の他なし之も村落固有の技と云はん源平綱引競争は甚だ不権衡にて初めより勝敗の帰する所は知られてありき馬上相撲は好き都合に済したり水泳と船漕は村落生徒の尤も長じたるものなれば何れも目新しく甚だ愉快にて殊に船漕の如き老練の漁者も及ばざるものもありたり総じて運動会なるものは生徒の氣象を引き立つるが主なるに同会には一向如斯くなく勝敗決しても喝采の声起らず如何にも調子外れの様にてありしは一大欠点なりしとはいはん²²⁾

ここでは、会場の選定が浜辺であったことから、生徒の演技に支障をきたし、「大いに体裁を失したり」と酷評されたものの、各種目に取組む生徒のひたむきな姿勢には積極的な評価がなされている。とりわけメイン種目たる体操の実演は、来観した諸教員の好評を浴びた。参加校は1887(明治20)年に庁令第十七号布達によって成立した簡易科小学校であった。「簡易科教則」によれば、簡易科に於いては「修業年限を三ヶ年とし、一日の授業を三時とする」(第一条)と定め、週時間数も読書(五時)、作文(一時)、習字(三時)、算術(九時)、実業演習(三時)と規定された。このように、成立当初の簡易科小学校は教則上は体操を課さなくても良いとされ、生徒に対する体育上の配慮は欠如していた。四ヶ村小学校連合運動会における体操の実演は、明らかに福山市街小学校連合運動会に倣ったものと思われる。当時は既に普通体操の講習

会が郡下の教員を対象に開催されていることから、その番組に体操が編入されても不思議ではなかった。また、運動会の実施に際して集められた寄附金は、その多くが体操器具の購入に充てられた。当日の運動会における体操の実演は、普通体操の基本運動である徒手系の体操に終始したが、文部省推奨の普通体操は、簡易科小学校に欠落していた体操教育の啓蒙に重要な役割を果たしたのではなかろうか。

福山の松城小学校で始められた運動会は、明治 21 年頃には松前全域の小学校に波及したと見られるが、その実施形態は複数の小学校共催による連合運動会であった。こうした連合運動会の共同開催は、松前郡では 1904 (明治 37) 年まで継続され、開催時期を 5 月か 6 月上旬とする春季の学校行事の一つとなった。

ところで、北海道における諸学校運動会の成立はいつ頃であろうか。表は、松前郡内連合運動会の成立期当時における道内各地で開催された諸学校運動会の推移を、函館新聞、北海道毎日新聞記事をもとに纏めたものである。これらの新聞が諸学校運動会の全ての事例を網羅したものであるか疑問であるが、それにしてもかなりの開催数である。運動会は、1887 (明治 20) 年以前は札幌農学校と松城小学校運動会の二例であるが、それ以後は開催数は 22 となっている。これらの開催事例を地域別に見れば、函館地区(3)、渡島地方(4)、後志地方(2)、小樽・札幌地区(8)となっており、このうち小学校運動会は全体の半分を占めている。

北海道の初期の運動会事例

開催年・月	運動会名・学校名	実施場所
明治 19 年・6 月	札幌農学校遊戯会 (第 7 回)	札幌農学校校庭
19 ・6	松前郡松城小学校生徒大運動	立石野 (原野)
20 ・5	札幌農学校遊戯会 (第 8 回)	札幌農学校校庭
20 ・9	松前郡福山市街小学校連合運動会	立石野 (原野)
20 ・9	函館商業学校生徒大運動会	函館山公園
20 ・9	函館区内小学校生徒運動会	競馬場広場
20 ・10	函館商船学校生徒運動会	測候所空地
20 ・10	札幌尋常師範学校生徒大運動会	博物館裏手広場
21 ・4	札幌師範学校同附属小学校運動会	博物館裏手広場
21 ・5	茅部郡百尻熊泊尾札部小学校運動会	原野
21 ・6	札幌農学校遊戯会 (第 9 回)	札幌農学校校庭
21 ・6	寿都郡中歌政治溪川湯別小学校運動会	(不 明)
21 ・6	松前郡福山各小学校連合運動会 (第 2 回)	立石野 (原野)
21 ・6	札幌区内酒造家運動会	中島公園
21 ・7	札幌郡豊平小学校生徒運動会	小学校裏地
21 ・8	松前郡吉岡宮歌福島白符各小学校海陸大運動会	吉岡海岸
21 ・10	北海道師範学校生徒大運動会 (第 3 回)	博物館広場
22 ・4	札幌敬業塾生徒運動会	中島公園
22 ・5	小樽区内小学校生徒運動会	住吉神社境内
22 ・5	札幌創成学校生徒運動会	博物館広場
22 ・5	札幌農学校遊戯会 (第 9 回)	札幌農学校校庭
22 ・5	松前郡福山市街各小学校連合運動会 (第 3 回)	立石野
22 ・8	札幌製麻会社運動会	札幌神宮空地
22 ・9	松前郡吉岡「宮歌福島三小学校運動会	吉岡海岸

(函館新聞・北海道毎日新聞より作成)

この頃の小学校運動会は、いずれも普通体操（徒手体操・手具体操の一部）、各種遊戯（旗取・綱引等）、徒競走の三種目を中心に構成されている。体操では徒手及び手具体操のうち啞鈴が、遊戯種目では旗取、綱引が最も多く、フットボール、ベースボールはわずかに札幌創成小学校の一例に過ぎない。運動会における野球やサッカーの導入は、既にこの頃札幌農学校や北海道師範学校に見られるが、当時は正式ルールによる学校間の対抗試合が成立しておらず、未分化な球技運動に留まっていた。おそらく、それらが運動会の遊戯の余興として行われていたのであろう。初期の小学校運動会の実施種目を見る限り、それらの多くが体操伝習所の教官であった坪井玄道の著書、『戸外遊戯法』に収載された種目が大部分を占めている。因みに、同書で紹介された遊戯法の内容は次の通りである。

（第一）鹿や鹿（第二）盲目鬼（第三）鬼遊び（第四）卵帽子（第五）日月火水（第六）投球競走（第七）旗拾ヒ競走（第八）旗戻シ競走（第九）二人三脚（第十）囊脚競走（第十一）ポーム・摺球（第十二）綱引（第十三）行進法（第十四）投環（クウォイツ）（第十五）投球（ボールス）（第十六）トロコ（第十七）フットボール（第十八）循環球（クロッケー）（第十九）ローンテニス（第二十）ベースボール（第二十一）操漕術

これらの遊戯法のうち、第十四から第二十項目の遊戯を取り入れた運動会は稀である。北海道における成立期の小学校運動会は、内容的には体操伝習所系譜の体操、遊戯を以て始められたと見るのが妥当であろう。運動会の会場については、校内運動場が未整備のためか、校外のさまざまな場所が活用されている。学内での開催は僅少であり、近郊の広場、神社境内、浜辺、公園等が利用された。このように北海道の小学校運動会は、1886（明治19）年の松前郡松城小学校を端緒とし、1888（明治21）年頃より函館、小樽、札幌地区を中心とする公立小学校に普及していく。この頃になると、商業学校、師範学校等の中等教育機関でも運動会が開催されるようになり、こうした学校運動会の普及と相俟って、札幌では会社、商店組合の運動会が芽生え始めている。

札幌酒造家の運動会

当区の酒造家連中は丈二尺程の桜の木を野幌より堀り来り中島の遊園地池端へ植え付け、同所内に於て従業員の運動会を催し若干には角力（相撲）及び競走遊戯を互ひにやり取りなしたるといふ²³⁾

5. 学校体育の振興と体操伝習所修業生

北海道における初期の小学校運動会は、普通体操などの実演とともに、徒競走、旗取、綱引などの競争遊戯種目を加えた折衷的な運動会であり、実演的、競争的、娯楽的な三要素を基本として成立した。運動会のプログラムは地域的特色をもった運動を加えながらも、基本的には体操伝習所系譜の体操・遊戯種目が大勢を占めている。この時期は学校体育の振興という時代傾向を反映して、運動会の構成要素としての実演的（デモンストラティブ）な側面が強調され、集団体操は運動会のメイン種目となった。

1886（明治19）年の「小学校令」（勅令第十四号）の公布と、「小学校ノ学科及其程度」（文部省令第十一条）の示達は、わが国学校体育の制度的確立の契機をなした。それによれば、体操は尋常科・高等科ともに教科目に取り上げられ、尋常小学科では週6時間、高等小学科では週5時間の時間配当となっている。また体操科の内容については、遊戯・徒手体操・普通体操・

隊列運動と規定されている。小学校令における普通体操の規定によって、リーランドが伝えた体操が正式に学校体育の教材となったのである。次いで1891(明治24)年の「小学校教則大綱」の公布に伴い、体操科の目標が「身体ノ成長ヲ均整ニシテ健康ナラシメ精神ヲ快活ニシテ剛毅ナラシメ兼テ規律ヲ守ノ習慣ヲ養フヲ以テ要旨トス」²⁴⁾と定められた。体操科における身体的資質と精神的資質の涵養、わけても後者の明文化は、森有礼が求めた国家主義的教育理念の結実であり、その有効な手立てとして兵式体操の教材化が始まる。

北海道庁は先の小学校令の趣旨をうけて、1887(明治20)年4月に庁令第十六号を以て、小学校教則及び小学簡易科教則を規定し、これを管下の諸学校に通達した²⁵⁾。ここにおいて、北海道の体操科教育は本格的な成立を見る。明治20年代初頭の運動会の盛行は、こうした学校体育の制度改革と密接に関連しており、体操科の教育的成果を広く公表する格好の機会とされた。ところで、体操伝習所系譜の体育法の伝達普及に努めたのは、わが国最初の体操教員養成機関である文部省直轄体操伝習所の修業生であった。同所は、「本邦ノ体育法ヲ撰定シ、且体育学教員ヲ養成スル」ことを目的として、1878(明治11)年11月に設立された。設立当初の修業年限は二年で、生徒は毎月六円の給料を受け、卒業後三年間は文部省指定の職に就かねばならなかった。文部省は1881(明治14)年に伝習所規則を改正し、これまでの官費伝習員募集から、文部省直轄学校生徒、府県派遣の伝習員及び自費志願による伝習員の募集方式に切り換えた。これに伴い、その修業期間も十ヶ月に短縮された。その後、増大する体操教員の需要に応えるために、文部省は1884(明治17)年に伝習所規則を再改正し、修業期間を六ヶ月とする別課伝習員規則を定めた。

体操伝習所における卒業者の年次別推移については先の表に示したとおりであるが、同所が存続した8年間の卒業者総数は255名であり、うち給費生(36)、伝習員(132)、別課伝習員(87)となっている。北海道から体操伝習所に赴いた伝習員は、齊藤寿蔵(伝習員第二回生・函館師範学校助教諭)、藤井 秀(伝習員第三回生・札幌師範学校助教諭)、遠藤克己(伝習員第五回生・函館師範学校生徒)、秋山 亨(別課伝習員第三回生・函館師範学校生徒)の4名であった。函館師範学校関係者は、いずれも函館県より派遣の伝習員であった。

1882(明治15)年に、北海道は三県分治(札幌・函館・根室)が施行され、小学普通教育は各県に委ねられることとなった。1883(明治16)年3月、函館県は独自の小学規則を制定し、文部省令「小学校教則綱領」に準拠した教科課程を明示し、教科目を確立した。体操については、初等科は四肢運動、中等科は徒手運動、高等科は器械運動と規定され、週3時間実施することとされた。しかしながら、こうした教則の整備にも拘らず、体操教育を実施するための条件は不十分であった。1883(明治16)年の「函館県年報」によれば、「将来学事施設上須要ノ件」として、体育法(教授法)の改良が特記されている。

体操ノ欠クヘカラサル亦夙ニ体操科アリト雖モ未タ完全ト謂フヘカラサル、故を以テ本年八月、体操演習ノタメ助教諭ヲ出京セシメタリ、帰任ノ上ハ本県ノ体育改良ニ着手セン²⁶⁾

かくして函館県では、1883(明治16)年より新体育法の体得者である指導者の計画的な養成が開始される。北海道最初の体操伝習所の伝習員となった齊藤寿蔵は、大阪府出身の旧氏族であり、1881(明治14)年に函館師範学校三等助教諭として勤務した。陸軍戸山学校体操科の修業生であった彼は、そこで学んだ軍隊体操の知識をもとに、師範学校生徒の体操指導に携わる傍ら、茅部山越両郡の巡回訓導として活躍した。齊藤が体操伝習所の新体育法を学ぶ直接的契機は、1885(明治15)年発足の「師範学校取調委員」制度によるものであった。この制度は、

「今般東京氏師範学校ニ於テ本年九月ヨリ一学年間（中略）此期ヲ以テ臨時教場ヲ開キ」、地方における諸学校の教授法の改良を図るために設けられたもので、東京師範学校校長の高嶺秀夫の発議によるものであった。各府県は文部省の要請に応じて、師範学校教員の派遣を行っている。伝習の内容には、東京師範学校において1年間、「師範学科ヲ取調べ兼テ本所(体操伝習所)ノ体操科ヲ兼習スル」となっているように、体操伝習所の体操修業をも兼ていた。一年間の研修を終えて帰函した斉藤は、その成果の一端をまとめて、函館教育協会の定例会で「体育改良ノ一方案」なる講演を行った。その要旨は、現行教育の欠陥たる体育の教育における地位を確立し、体操教育を盛んならしめるための物質的諸条件（施設・指導者・普及啓蒙活動）の改善を指摘したものであった。これを契機に、函館県下の体操の伝達講習会が組織的に行われるようになった。これとともに、函館師範学校を中心とする体操教員の養成も始まり、当時中等科生徒であった遠藤克己が斉藤の推薦により、函館県派遣の体操伝習所修業生となった。遠藤は1888（明治19）年に開校した函館商業学校の体操教員に採用されたが、同校の学科課程における体操は、体操伝習所の体操で構成されている。

第一学年 普通体操 準備法 矯正術 徒手体操 球環体操 棍棒体操 隊列運動

第二学年 普通体操各演習 兵式体操 柔軟体操 生兵学 号令

第三学年 兵式体操 中隊学 路上測図 体操各演習

「学科課程 体操」 体操ハ始メ普通体操法ニヨリ準備法徒手体操隊列運動及球竿啞鈴木環棍棒ノ体操ヲ授ケ次ニ兵式体操ニ移リ柔軟演習生兵学号令中隊学路上測図ヲ授ケ凡体操ノ要ハ生徒ノ体育ヲ翼成シ跳躍運動ノ間亦其心志ヲ活発ニシ勇毅ノ気象ヲ養成セシメ兼テ国家有事ノ日隊伍ニ列シ防衛折衝ノ務ヲ全フセシムルニアリ²⁷⁾

明治18年の体操伝習所学科課程

術科	週12時間	兵式体操 生兵ヨリ中隊ニ至ル諸演習 体操 柔軟体操 器械体操 活用銃槍術
	週15時間	軽体操 整頓法 隊列運動 矯正術 徒手体操 啞鈴体操 球環 体操 棍棒体操 木環体操 豆囊体操 附 戸外運動
学科	週6時間	兵学ノ大意 測図
	週9時間	人体ノ構造、組織、各機関ノ作用 学校衛生ノ概略 体操術ノ原理
	適宜時間	教員ノ責務

（今村嘉雄『日本体育史』より）

ところで、上の表は1888（明治18）年に改正された体操伝習所の学科目の一覧であるが、函館商業学校の体操科教育が体操伝習所のそれを如何に忠実に反映しているかは明瞭である。その意味では、函館商業学校は体操伝習所方式の体育を成立させた北海道における最初中等学校であったといえよう。同校では開校翌年の1889（明治20）年に、遠藤克己の発議によって「生徒大運動会」が開催されている。遠藤は伝習所の恒例行事となった運動会をヒントにして、自らが指導した体操の実演を公開し、運動会の開催によって体育に対する関心を衆庶に喚起することを思い立った。実施種目は、普通体操、競走遊戯を内容としたもので、全校生徒による普

通体操の実演は、運動会の中心をなした。

六月九日公園に於て施行ありし函館商業学校生徒大運動会の景況を略記すれば当日は朝より降雨にて日延べせんとしたるも天気晴れたるに抛り昼十二時より始めたり、来会せしは出張所其他諸官吏参加人等賑しく先づ第一徒手体操六十人第二啞鈴体操五十人第三棍棒体操上級生第四旗拾競争五回第五一人一脚競争第六二人三脚第七障害物競走第八駆足四回第九番外遊戯を行ひたれども時間なきを以て予定の通りなすこと能はず午後六時散会せり、遊戯中各優等三十四人へ賞品を与へ又生徒一同へは茶菓を与へたり²⁸⁾

函館商業学校における体操・遊戯種目を主軸とする運動会のプログラム化は、後の北海道の諸学校運動会のモデルとなったと思われ、その影響は松前郡や函館区内小学校運動会に及んでいる。既に述べたように、体操科における普通体操の正課編入に際して、小学校教員対象の体操講習会が開催された意義は大きい。函館県では1888(明治19)年に函館区内及び松前郡で体操講習会が開催されている。北海道における最初の普通体操の伝達講習会は、同年6月28日より4日間にわたって開催された函館区内小学校教員対象の「体操講習会」である。講習会の目的は、「当区ニ於ケル小学校ノ体育改良ヲ計ランカ為諸教員ニ規定体操術等ヲ授ル」というもので、函館県学務課は、函館県派遣の体操伝習所伝習員、遠藤克己を実技講師に任命した。

体操講習会ハ六月二十八日ヨリ開会セリ教師ハ函館商業学校遠藤克己君ニシテ講習員ハ区内公私立小学校教職員ヲ以テ組織ス凡五十余名アリ時間ハ午後二時ヨリ四時迄二時間トス講習員ハ分テ甲乙二組トシ徒手球環啞鈴、号令演習、戸外遊戯ヲ演習セリ中ニモ目ニツキシハ女教員ニシテ其挙動活発ナルコト男子ニ一步ヲ譲ラス講習員皆ハ八時間ノ授業ヲ受ケ炎天厭ハス流汗衣ヲ浸シナカラ演習ヲ為セリ此処講習会ハ今後八月休業ヲ除キ九月迄満二ヶ月施行予定アリ今ヤ教則改マリ体操科ノ従前ニ比シテ貴重セラルルハ云フ迄モナク現ニ五時間ノ授業時間中一時間ヲ之ニ充ツ苟クモ輕視スル事得ス之ヲ重ンジ其之カ目的ヲ達スルニハ第一ニ熟練ノ教師ヲ要ス即体操講習ノ急務ナル所以ナリ²⁹⁾

講習内容は、普通体操三種(徒手・啞鈴・球環)、号令演習、戸外遊戯とされ、各日とも三時間の演習であった。講習員は区内小学校教職員五十余名であり、この中には数名の女教員が含まれていた。本講習会はその後9月迄定期開催され、最終日に講習の成果を問う実技試験が課されている。一方、松前郡でも8月に福山市街各小学校教員を対象とした体操講習会が開催され、函館商業学校教諭の遠藤克己が講師として派遣された。

当日ハ寺田郡長及石野郡書記官遠藤教諭ノ演説アリ又最初講習ノ時間ハ一時半ノ定メナリシモ漸次日限ニ近キテ未タ熟セサル所モアリ二日目ヨリハ二時間トシ以後ハ三時間酷暑ヲモ避ケス且倦怠ノ情態ナク演習セラレタル又時日ノ僅少ナルニモ拘ラス甚タ好結果ナリシ演習中毎日市街ヨリ幾多ノ傍觀人アリタルカ体育ノコトニ就テハ定シ幾多ノ感覺ヲ与ヘタル³⁰⁾

松前郡では、最初の体操講習会が郡役所所在地である福山で始められ、講習員は松城、熊野、山上各小学校教員25名、福山女子校教員2名であった。講習期間は一週間、一日三時間の実技演習が行われた。講習内容は函館区内小学校教員対象の体操講習会と同じく、普通体操(徒手・啞鈴・球環)、号令演習、戸外遊戯となっているが、ここでも講習会最終日に実技試験が課せられている。このように函館県の体操講習会は、小学校令にもとづく体操科の定立と深く関わっており、小学校の体操教育を実効ならしめる為には、文部省規定の体操術に熟達した教員の迅速な養成は急務であったといえよう。

おわりに

本稿では、北海道における小学校運動会の起源を 1886（明治 19）年の松前郡松城小学校運動会に求めながら、同校の運動会成立とその背景、ならびにそれが郡内各地の小学校に波及する過程における実施形態の変容や諸特徴などについて検討を行った。その結果は、以下のように要約される。

- 1）北海道における学校運動会の原型たる札幌農学校遊戯会の成立について。1878（明治 11）年 6 月に開催された札幌農学校遊戯会は、同校の外国人教師であった W. ウィラーの発案によるものであった。遊戯会は当初「力芸」と呼ばれ、ウィラーの出身大学であるマサチューセッツ農科大学のスポーツの統括団体である「College Athletic Association」が企画した、クラス対抗の Athletic Meeting に倣ったもので、陸上競技種目と遊戯種目併用の運動会であった。以後、遊戯会は農学校の学校行事の一つとして定期開催され、1887（明治 20）年の第 8 回遊戯会の頃には、北海道師範学校や区内の一部の小学校運動会の番組に影響を与えた。
- 2）1886（明治 19）年に開催された松前郡松城小学校運動会は、北海道における小学校運動会の嚆矢であった。同校では開校以来、体操科設置あるものの、生徒の身体活動は不活発であり、学校体育は不振を極めていた。また、明治 10 年代後半に普通体操の一部をなす徒手・矯正術が体操科に導入されたが、普通体操の指導法の未確立と相俟って、画一的、形式的な体操教育に終始した。生徒の体操忌厭の風潮が高まる中で、郊外広場を活用した体育的、レクリエーション活動としての運動会が企画された。運動会の番組は体操、綱引、旗取の三種目から成り、とりわけ体操科における徒手・矯正術の成果の実演は、郡内教育関係者や父兄の注目を浴びた。小学校における最初の運動会は新聞メディアによって取り上げられ、社会的関心事となった。
- 3）松城小学校運動会は直ちに近隣の小学校に影響を与え、複数校による連合運動会として新たな展開をみた。連合形式の運動会は、運営資金の捻出、運動用具の共有、生徒管理上の容易さなど、実施に伴う困難性を打開する最良の方法であった。運動会の啓蒙に中心的役割を果たしたのは、郡内の教育団体である「松前教育会」であり、機関誌「松前教育会雑誌」には、その教育的意義を評価する論調が目立つ。運動会における体操の実演は、体操教育の生果を公開する恰好の機会となった。また、文化・娯楽に恵まれなかった地域住民にとって、運動会は大きな関心事であり、生徒と父兄が共に楽しむという、日本の祭りの運動会の萌芽が見られる。
- 4）運動会は明治 21 年頃には松前郡全域の小学校に波及したが、その実施形態は複数の小学校共催による連合運動会であった。連合運動会はその後 10 数年間継続され、春季における学校行事として定着した。松前郡の諸学校に見られる体操・遊戯併用型の運動会が全道的に普及するのは、明治 20 年代前半である。運動会の広がりや、地域的には道南、道央地方に迄拡大された。
- 5）北海道における初期の小学校運動会は、普通体操の実演とともに、徒競走、綱引・旗取などの競争遊戯種目を加えた折衷的な運動会であり、実演的、競争的、娯乐的な三要素を基本として成立した。番組は地域的特色を加えながらも、体操伝習所系譜の体操・遊戯種目が大半を占めている。運動会の盛行は、諸学校令以降の学校体育の制度的確立と密接に関連し、運動会は体操科の教育的成果を公表する場として活用された。

6) 北海道における体操伝習所の体育法の伝播者は、同所に赴いた伝習員であった。北海道からの修業生は4名であり、いずれも師範学校関係者であった。小学校の体操科における普通体操の正課編入に際して、体操の伝達講習会が開催された意義は大きい。本稿では、体操伝習所修業生の一人であった遠藤克己を事例として、体操講習会のありようを明らかにした。尚、今後の課題と関連するが、北海道の初期の小学校運動会が普通体操の実演をメイン種目としながらも、府県の小学校運動会に見られる兵式体操を番組から除外している事実をどのように解釈したら良いのか、という疑問が残る。北海道における諸学校運動会の展開過程の実証的解明を通して、今後明らかにされる課題であろう。

〈注〉

- 1) 海軍兵学寮沿革・上巻(1960)164ページ。
- 2) 木村吉次(1996)海軍兵学寮競闘遊戯会に関する一考察, 教育学研究(63)。鈴木敏夫(1982)初期の札幌農学校遊戯会, 岸野雄三教授退官記念論集・体育史の探求(図書出版所収)。渡辺 融(1972)F.W ストレンジ考, 東京大学教養学部体育学紀要。
- 3) 今村嘉雄(1989)十九世紀における日本体育の研究(第一書房)969-979ページ。
- 4) 力芸施行ノ件届(1879)札幌農学校史料(整理番号067), 北海道大学北方資料室所蔵。
- 5) 新渡戸稲造が東京外国語学校大学予備門を中途退学し, 開拓使札幌農学校に入学したのは, 1877(明治10)年7月であった。所収の書簡は, 稲造から養父母宛に送った約5年間の手紙を指すが, この中には遊戯会について触れたものが三通ある。
- 6) 志賀重昂(1881)在札幌農学校第貳年期中日記, 北海道大学北方資料室所蔵。
- 7) 文武会陸上競技部(1933)北海道帝国大学陸上競技部報1, 180ページ。
- 8) The UNIVERSITY of MASSACHUSETTS, A History of One Hundred Years(1962)95-96ページ。
- 9) マサチューセッツ農科大学ベースボール史によれば, ベースボール部の創設は1871年となっている。創部に加わった9名の中に, W.ウィラーが名を連ねている。
- 10) 北海道毎日新聞(明治21年6月12日付)。
- 11) 札幌農学校遊戯会記録(刊行年不明), 20枚目。
- 12) 松城小学校沿革誌(1910)松前町立図書館所蔵。
- 13) 松前教育会雑誌・第一号(1887)大運動会ノ景況, 松前町立図書館所蔵。
- 14) カリセニクスは, わが国では美容体操, 整容体操と訳されているが, 一種の徒手系の体操である。アメリカにおけるカリセニクスのパイオニアは, C. ビーチャーであるが, 1832年に『女子のためのカリセニクス』を著して, 注目を浴びた。
- 15) 熊野小学校沿革誌(1910)松前町立図書館所蔵。
- 16) 松前教育会雑誌・第四号(1889)運動会ノ広告, 松前町立図書館所蔵。
- 17) 函館新聞(明治20年6月12日付)。
- 18) 松前教育会雑誌・第一号(1887)体操講習会ニ就テ。
- 19) 函館教育協会雑誌・第三十二号(1885)区内小学校教員ノ体操講習会。
- 20) 函館新聞(明治21年6月15日付)。
- 21) 松前教育会雑誌・第四号(1889)吉岡村海陸大運動会。
- 22) 同上。
- 23) 北海道毎日新聞(明治21年5月5日付)。
- 24) 「小学校教則大綱」(1891)・第十六号。
- 25) 管下町立小学校ニ於テ高等科若クハ尋常科ヲ教フヘキモノ左ノ各校トス但此他ノ小学校ハ總テ簡易科ヲ教フヘシ 明治二十年四月七日北海道庁長官 岩村通俊 創成学校, 附第一分校 札幌 弥生小学校 函館 松城小学校 松前尋常科 量徳小学校 小樽 寶小学校 函館 福山女子学校 松前 熊野小学校 松前 山上小学校 松前 柏樹小学校 檜山 花咲小学校 根室。

- 26) 文部省第十年報・付録 函館県年報。
- 27) 函館商業学校沿革誌（1929）学科課程 体操。
- 28) 同上。
- 29) 函館新聞（明治 19 年 6 月 29 日付）。
- 30) 松前教育会雑誌・第四号（1889）松前町立図書館所蔵。

〈附 記〉

本論文は，本年度を以て定年退官される，井芹武二郎教授に捧げられる。先生は本学部着任以来，学部での研究，教育ならびに管理運営に貢献されました。今後のご活躍を期待するものである。

【ABSTRACT】 Toshio SUZUKI, The Origin of Athletic Meeting for elementary schools in Hokkaido.

In July 1886, Matsushiro Elementary School at Matsumae District held the Athletic Meeting (Undokai). This event was the first attempt for elementary schools in Hokkaido. At the same time, this was one of the first cases of Undokai that was held at elementary schools in the latter nineteenth centuries in Japan.

This paper reviews the process of formation of Undokai at Matsushiro Elementary School and gives the consideration of the popularization of Undokai for elementary schools in Hokkaido.